

「JABEE 修了生における JABEE のメリット」

応用地質株式会社 専任職 井田貴史

JABEE 認定プログラムでは達成すべき知識・能力とともに学習・教育の PDCA が求められている。これは、技術者として社会に出てから求められる素養・能力を習得することを目的としているものである。大学教育においては、知識の習得だけでなく、研究の意義（調査研究には何かしらの課題があり、その課題を解決するためにはどうすべきかということ）を常に考えることが大事である。自身の研究では、偏った考えに陥らないように、考えられる可能性は必ず3つ以上挙げるように指導を受けたものである。また、JABEE 認定プログラムでは、技術者倫理に関する教育も求められている。大学時代の技術者倫理の講義では、できるだけ身近な事件・事故、社会問題となった事例を題材にしつつ、その事例の課題は何か？どこに問題があったのか？そもそもリスクとは何か？など、知識の伝授ではなく、考えて知恵を学ぶものであった。こういった教育は、社会に出てから「高度な成果を生産できる」や、「すぐに現場で活用できる」といったものではないが、技術者として活躍する中で必要不可欠な思考を培ってくれたものであったと感謝している。

自身の就職活動においては、いずれの建設コンサルタント企業においても技術士取得を重要視しており、JABEE 認定プログラムを修了したことをアピールすることができた。JABEE 認定プログラムはまだ珍しいものだったのか、面接官の反応も良好であったと記憶している。当時は、就職氷河期が終結した直後で、建設コンサルタント企業の採用はまだまだ厳しい状況であったが、2社から内定を頂き、現職に就くことになった。

JABEE 認定プログラムを修了する最大のメリットは、やはり技術士第二次試験の早期受験が確約されていることにつける。通常は、技術士第一次試験に合格してから実務経験4年を積まないと第二次試験を受験できない。この第一次試験が最初の難関となっているようであり、地質技術者が受験する応用理学部門では合格率が30～50%、合格する平均年齢が30代とされている。さらに、技術士第二次試験合格の平均年齢は40代であるとされている。これに対して、JABEE 修了者は、早いうちから技術士第二次試験を受験できることを反映してか、技術士第二次試験合格の平均年齢は30代とされ、前述したように私は20代で技術士を取得することができた。

企業側がなぜここまで技術士取得を重要視しているのか？については応用地質(株)中川取締役が述べてくれていると思うので、技術士取得後の技術者個人へのメリットについて述べる。最大のメリットは、技術士は国家資格であり、技術

者として社会的信頼性を得られること、公共事業の業務責任者（管理技術者）となる要件や入札時の評価に技術士が含まれており、仕事の幅が広がることであると考える。技術士取得後、さらに APEC エンジニアに登録すれば、海外で活躍することも可能である。また、技術士を取得することで、社内における技術者個人の評価（成績）が向上し、早期に昇進できる可能性もある。個人的に一番うれしいことは、会社からのインセンティブとして一時金や手当が給付されることである。昇給などの給与アップは、技術者に限らず、エンゲージメントや仕事へのモチベーションの向上に寄与する重要な要素である。